

# ライフジャケット検討委員会 最終報告書



一般社団法人

吉川慎之介記念基金

Shinnosuke Memorial Foundation

2020年12月

# 目次

---

---

1. プロジェクト全体の概要	…	3
2. ライフジャケット検討委員会の概要	…	4
3. 前提としての認識	…	6
4. 検討委員会を経て明らかになったこと	…	10
5. 水辺で遊ぶ経験・知識の不足	…	11
6. ユーザーニーズの多様化	…	17
7. ライフジャケットを着用する機会・仕組みの必要性	…	26
8. 検討委員会からの提言	…	33
9. さいごに	…	38
参考資料	…	41

# 1. プロジェクト全体の概要

---

## (プロジェクト背景と目的)

- ライフジャケットの普及活動は長年行われているが、実際に必要なファミリーに届いていない
- 船舶では使用するライフジャケットの基準が明らかになっているが、それ以外のシーンでは着用基準や選択基準がなく消費者に惑いがある。
- 実際の事故やリスク状況を鑑みた上で、ライフジャケットとして本当に必要な機能を検討し、現在流通しているライフジャケット等個人用浮き具に関する調査・分析を行う。

## (プロジェクトの柱)

1. 子どもの水辺の安全セミナーの実施
2. ライフジャケット検討委員会の実施・提言
3. 活動団体のプラットフォームの構築

## 2. ライフジャケット検討委員会の概要 ①実施目的等

### <実施目的>

ライフジャケットの普及に関する課題を明らかにし、普及に必要な要件を明らかにすることを目的として実施する。

### <委員会メンバー> (五十音順)

- ・石川仁憲 (公益財団法人日本ライフセービング協会 常務理事  
溺水防止救助救命本部長、中央大学研究開発機構 機構教授)
- ・斎藤真弓 (社会福祉法人清遊の家 理事長 ひのか保育園 園長)
- ・菅原一成 (公益財団法人河川財団 子どもの水辺サポートセンター 主任研究員)
- ・西田佳史 (東京工業大学工学院 教授、NPO法人SAFE KIDS JAPAN 理事 日本子ども安全学会理事)
- ・松本貴行 (公益財団法人日本ライフセービング協会 副理事長 ライフセービング教育本部長、  
成城学園中学校高等学校 保健体育科教諭)
- ・吉川優子 (一般社団法人 吉川慎之助記念基金 代表理事)

### <実施内容>

- ・訴求していく”ライフジャケットが必要なシーン”の検討 (事故事例、調査などから)
- ・”必要なシーン”から考える、現在のライフジャケットの課題 (着用感調査の実施を含む)
- ・調査結果等踏まえた訴求するシーンに対して必要なライフジャケットの提案

## 2. ライフジャケット検討委員会の概要 ②実施スケジュールと内容

<想定する委員会全体スケジュール(第2回まで実施中)>

	内容	オブザーバー
第1回 7月	<ul style="list-style-type: none"> <li>・委員の自己紹介、活動の簡易紹介</li> <li>・水辺の事故に関する認識共有(河川:菅原委員・海:石川委員)</li> <li>・ライフジャケット着用感調査の設計に関する意見交換</li> <li>・ターゲットとすべき対象の検討</li> <li>・ライフジャケット着用感調査の設計について</li> </ul>	
8月	<ul style="list-style-type: none"> <li>・着用感調査の実施@鎌倉×2回</li> </ul>	
第2回 8月	<ul style="list-style-type: none"> <li>・行動変容モデルについて(西田委員)</li> <li>・ライフジャケット着用感調査の結果速報</li> <li>・ライフジャケットメーカー等との意見交換</li> </ul>	ライフジャケット メーカー3社
第3回 9月	<ul style="list-style-type: none"> <li>・実物のライフジャケットをもつての着用感調査との照らし合わせ、意見交換</li> <li>・水辺の安全実習について意見交換</li> </ul>	
第4回 11月	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ライフジャケットの普及に関する課題、及び今後に向けた提案の検討</li> </ul>	

### 3. 前提としての認識(1/3)

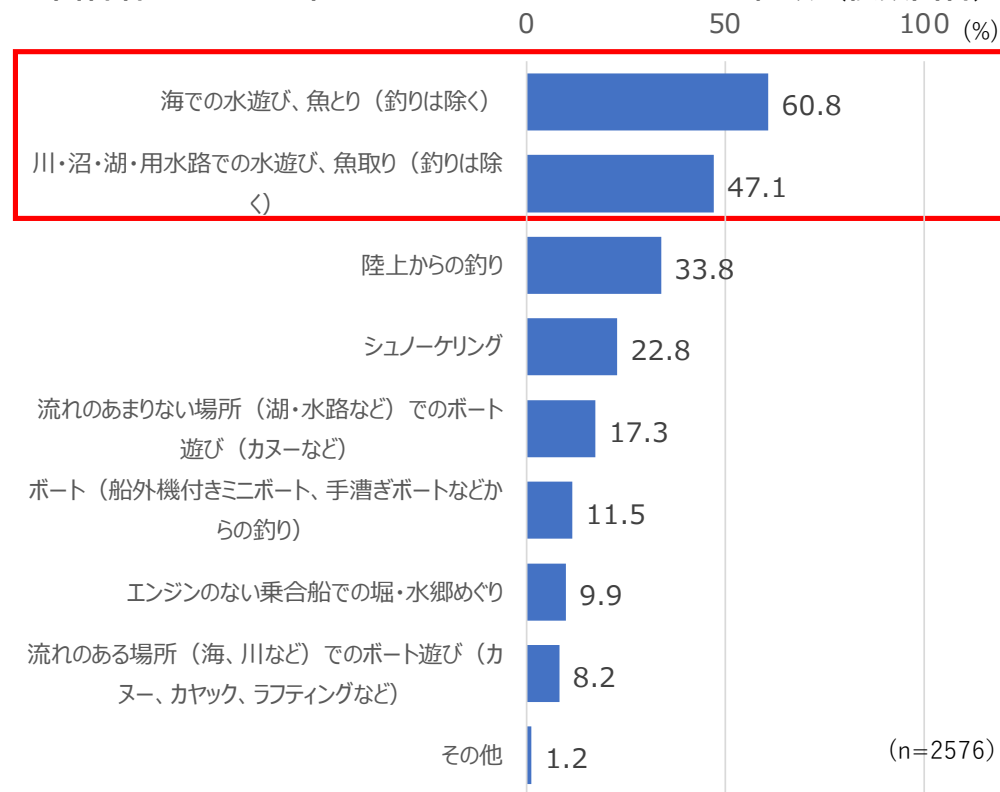
---

- ✓ 人は水の中ではおおよそ2%程度しか浮かず、おぼれかける状態では頭を水面に出して呼吸することが難しい。
- ✓ 川や海などの自然域では、表面からはわかりづらい水の流れが発生しており、天候、時間帯などによって状況は変動する。
- ✓ 現在流通しているライフジャケット(個人用浮き具)には、一定程度の浮力があり、正しく着用をすれば溺れたり、事故に遭うリスクは軽減することができるがライフジャケットの着用が普及しているとは言い難い。

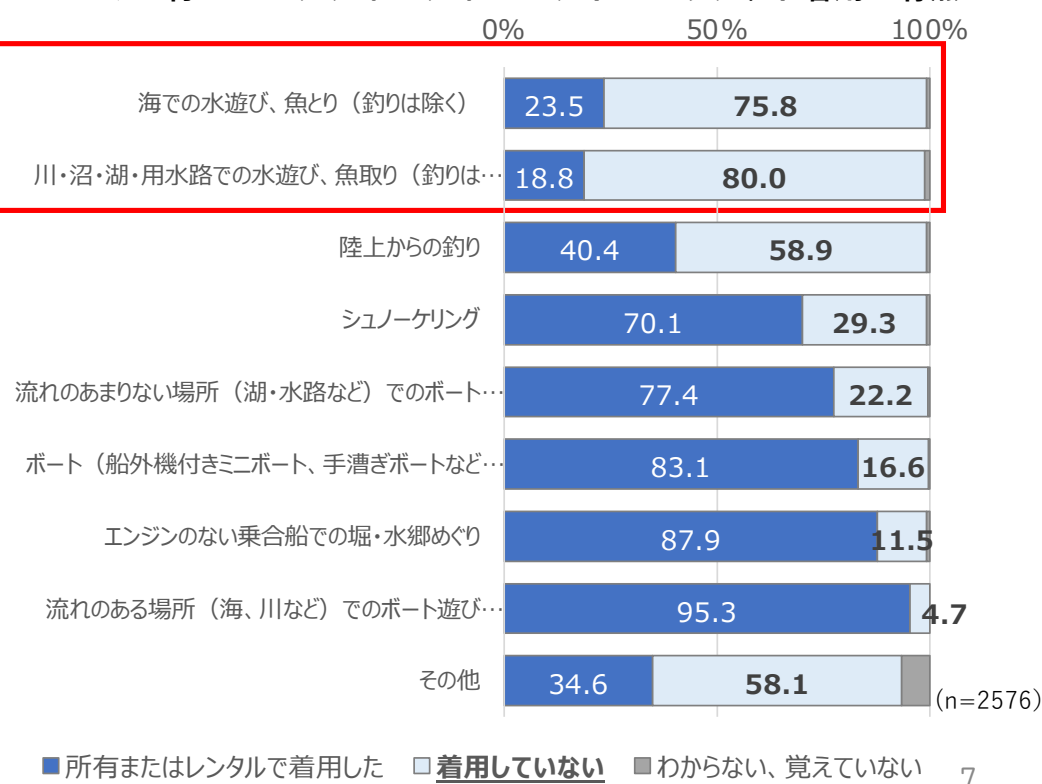
### 3. 前提としての認識(2/3)

✓ 既存調査によれば、海や川で行われる、いわゆるアクティビティではなく、“水遊び”でライフジャケットの着用経験が低い。水遊びは実施率が高く、「実施率が高い遊びで非着用の割合が高い」状態。

▼ 回答者が子どもと行った水辺のアクティビティの種類（複数回答）



▼ 行ったアクティビティでのライフジャケット着用の有無

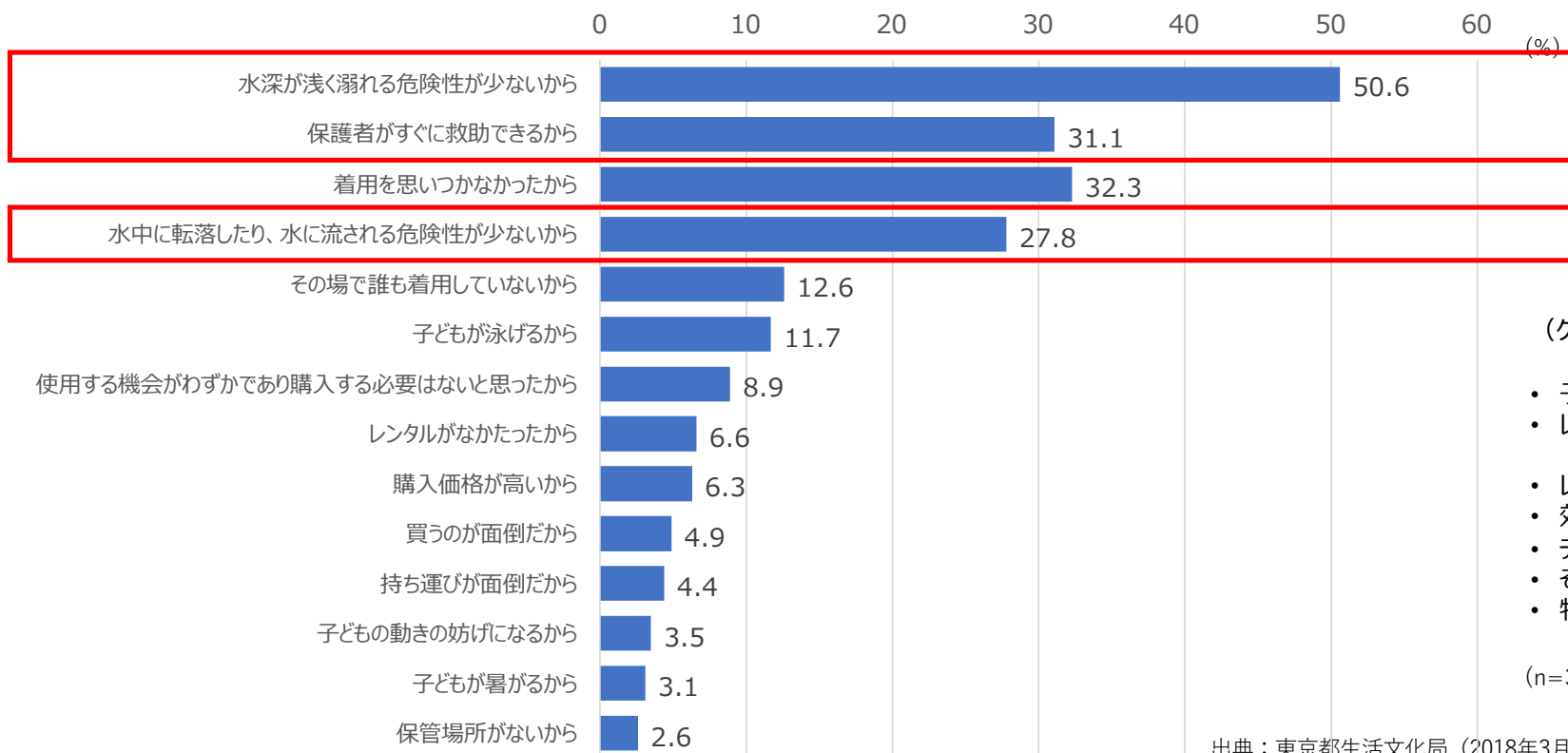


出典：東京都生活文化局（2018年3月）「子供用ライフジャケットの安全な使用に関する調査」より抜粋・加工

### 3. 前提としての認識(3/3)

✓ ライフジャケットを使わない理由は「危険性が少ない」「救助できるから」が上位を占める。  
ただし前述したように、自然環境は変わりやすく、子どもの行動は予想がつかない。

▼ ライフジャケットを着用しなかった理由（複数回答）



(グラフ外、他項目の回答率)

- 子どもが恥ずかしがるから (0.6%)
- レンタル品に子供に合うサイズがなかったから (0.4%)
- レンタル価格が高かったから (0.4%)
- 効果がわからないから (0.3%)
- デザインの良い製品がないから (0.3%)
- その他 (2.4%)
- 特に理由はない (5.4%)

(n=3046)

出典：東京都生活文化局（2018年3月）「子供用ライフジャケットの安全な使用に関する調査」より抜粋・加工



## (参考) 子どもの行動や自然環境に関する意見、研究共有

### ▼ 子どもは自由に動く

子どもは動き回る、予期しない動きをするのが普通。  
安全な場所で遊んでいるから大丈夫、ということはない。  
(ライフジャケット検討委員会 西田委員)

### ▼ 保護者はKEEP WATCHできない

海辺に来ている様子を見ていると、保護者がキープウォッチするのが難しいというが分かる。例えば車を降りて、子どもは砂浜に駆け出すが、保護者は荷物を持って移動するので遅れが出る。さらに、テントを立てたり荷物を置く間も子どもは海に近づく。帰るときにも保護者が片付けている間子どもは自由行動。目を離してしまう機会が多い。  
(ライフジャケット検討委員会 松本委員)

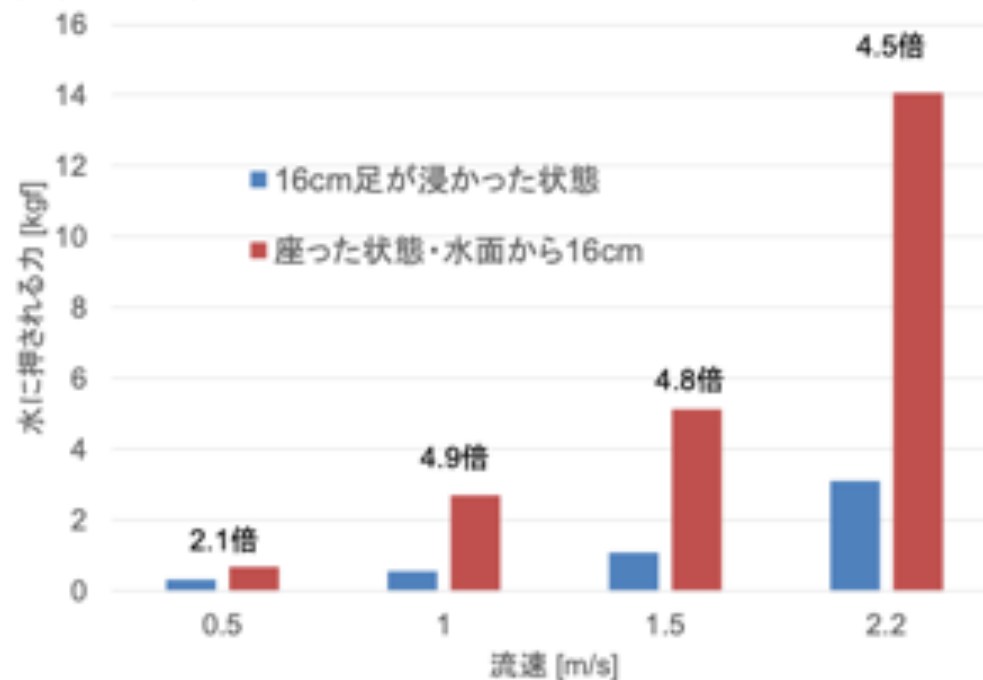
### ▼ 危ないところは上から見えない

海で足を取られやすい窪み（インショアホール）は波で視認することは難しく、川の深さは光の屈折や反射、透明度等により岸からは見えにくい。「安全」は浜辺、岸辺からは見えない。  
(ライフジャケット検討委員会 石川委員、菅原委員)

出典：ライフジャケット検討委員会 議事録

### ▼ 尻餅をついただけで体がうける水圧は立った状態の5倍

立っていた状態(16cm水に浸かっていた場合)から  
転倒した場合に、水によって押される力の違い



出典：西田佳史\*「流水によってうける力に関する実験結果」  
\*東京工業大学 工学院機械系ESDコース 教授



## 4. 検討委員会を通じて明らかになったこと

---

<ライフジャケットが普及しない要因として考えられるポイント>

### ✓ 水辺で遊ぶ経験・知識の不足

- … ①水辺の経験が豊富な保護者は多くない
- … ②水辺のリスクを知らないので、必要性を感じない

### ✓ ユーザーニーズの多様化

- … ①「水遊び」の時のライフジャケットの着用感
- … ②ユーザーが選ぶためのライフジャケットの情報不足

### ✓ ライフジャケットを着用する機会・仕組みの必要性

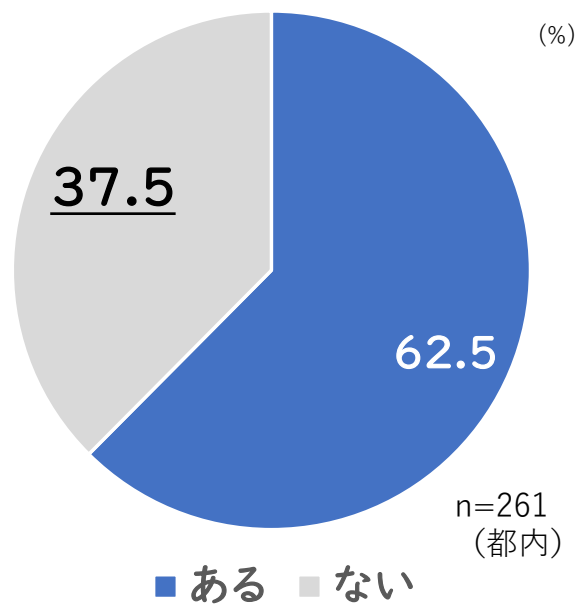
## 5. 水辺で遊ぶ経験・知識の不足

## 5. 水辺で遊ぶ経験・知識の不足

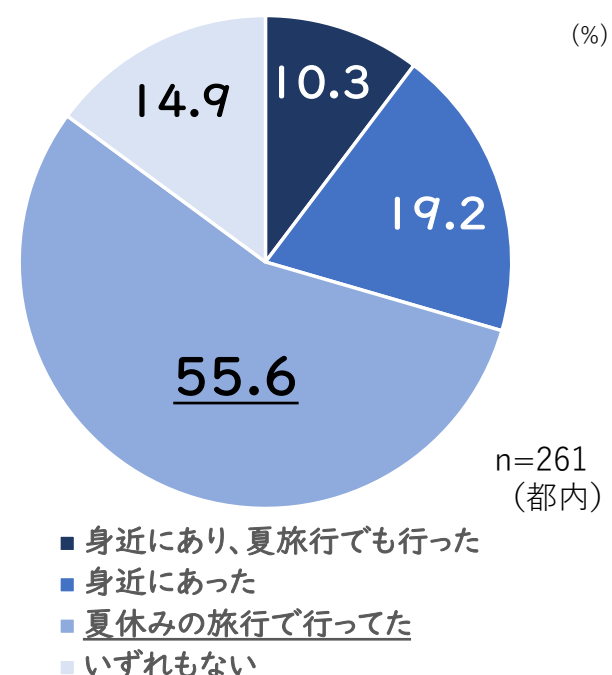
### ①水辺の経験が豊富な保護者は多くない(1/2)

都内の複数の社会福祉法人にご協力をいただき、子どもの水辺の体験に関するアンケートを行ったところ、**4割弱は、海や川に連れていく機会はないと回答した**。また、自身の子どもの頃の経験でも「夏休みの旅行で行った」など、触れる機会が少ない人が半数を占めていることがわかった。

#### ▼ 子どもを海や川に連れていく機会があるか



#### ▼ 自分の子どもの頃の海や川で遊んだ経験



出典：ライフジャケット検討委員会実施「ライフジャケットの着用に関するアンケート」(集計対象 区内在住の親)

## 5. 水辺で遊ぶ経験・知識の不足

### ① 水辺の経験が豊富な保護者は多くない(2/2)

同アンケートでの自由記載では、「自然域の水辺は怖い」、「怖いので遊ばせたくない、行かない」、「自分自身が苦手でいく機会がない」など、水辺に不安を感じている声を確認できた。

潮の流れが怖い。テレビで見て怖いと思ったので、なるべく浅瀬や岩場など足がつくところで遊ばせたい。(5歳 保護者)

泳げる子になってほしいが、**私自身海や川が苦手なのでなかなか行く機会がない**けれど、もし誘われたりしたら、子どもの経験のためには連れて行ってあげたい。川で魚釣りとか浅いところを潜って魚を見たり手で獲ったりしてみたい。(0歳 保護者)

プールと違って川は急に深くなったり流れの速いところがあったりして、子どもを連れていくと全く目が離せません。自然の中で生物(魚やカニ・・・)に触れさせてあげたいのですが、**不安でなかなか行けません**。(6歳 保護者)

よく知っている川や海なら危険なところも注意できるけれど、**そうでない川や海は、恐くて遊ばせたくない**と思います。(5歳 保護者)

川で釣りや川沿いでキャンプなどやってみたいが、**水の事故のニュースを見ると怖いし、近くにできるところもない**(4歳 保護者)

海も川も危険であることを常に忘れず遊ぶようにしている。でも**怖くてあまり行けていない**かも。(4歳 保護者)

水遊びはプールでは大人が必ず付き添うようにしています。**海での浮輪使用は怖いのでまだしていません。川はもっと怖いので行っていません**(1歳 保護者)

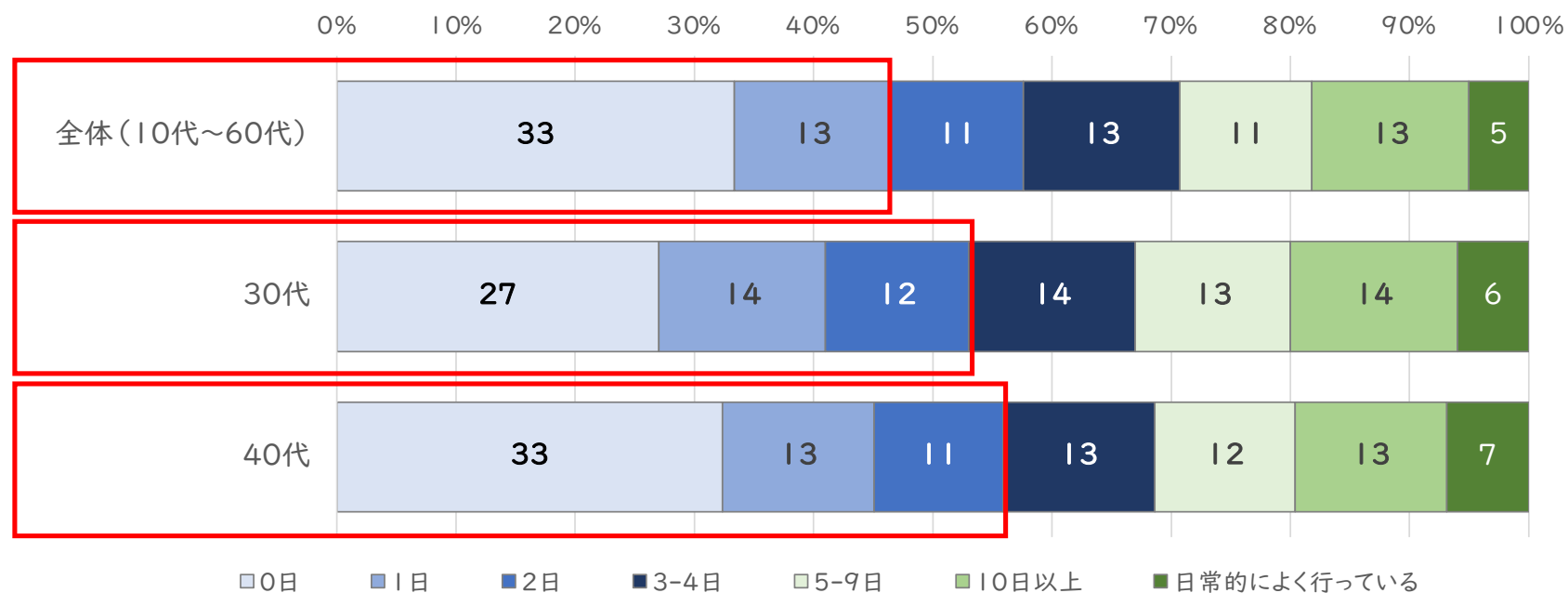
毎年ニュースで海や川での不幸な話を聞くので、とにかく心配。**いろんな経験はさせた方がいいと思うけど、プール遊びくらいが安心**。(9歳 保護者)

## 5. 水辺で遊ぶ経験・知識の不足

### (参考) ① 水辺の経験が豊富な保護者は多くない

海に限られるが日本財団が行った全国調査によれば、同様に3割程度が「この1年間海に行っていない」と回答、さらに訪れている人でも、1日、2日といった限られた日数が多い。保護者世代である30-40歳代でも同様の傾向となっており、全国調査でみても水辺での経験が豊富とは言い難い。

#### ▼ 直近1年で海に訪れた日数 (調査：2019年5月24日~6月3日)



日本財団(2019)『「海と日本人に関する」意識調査結果』より抜粋

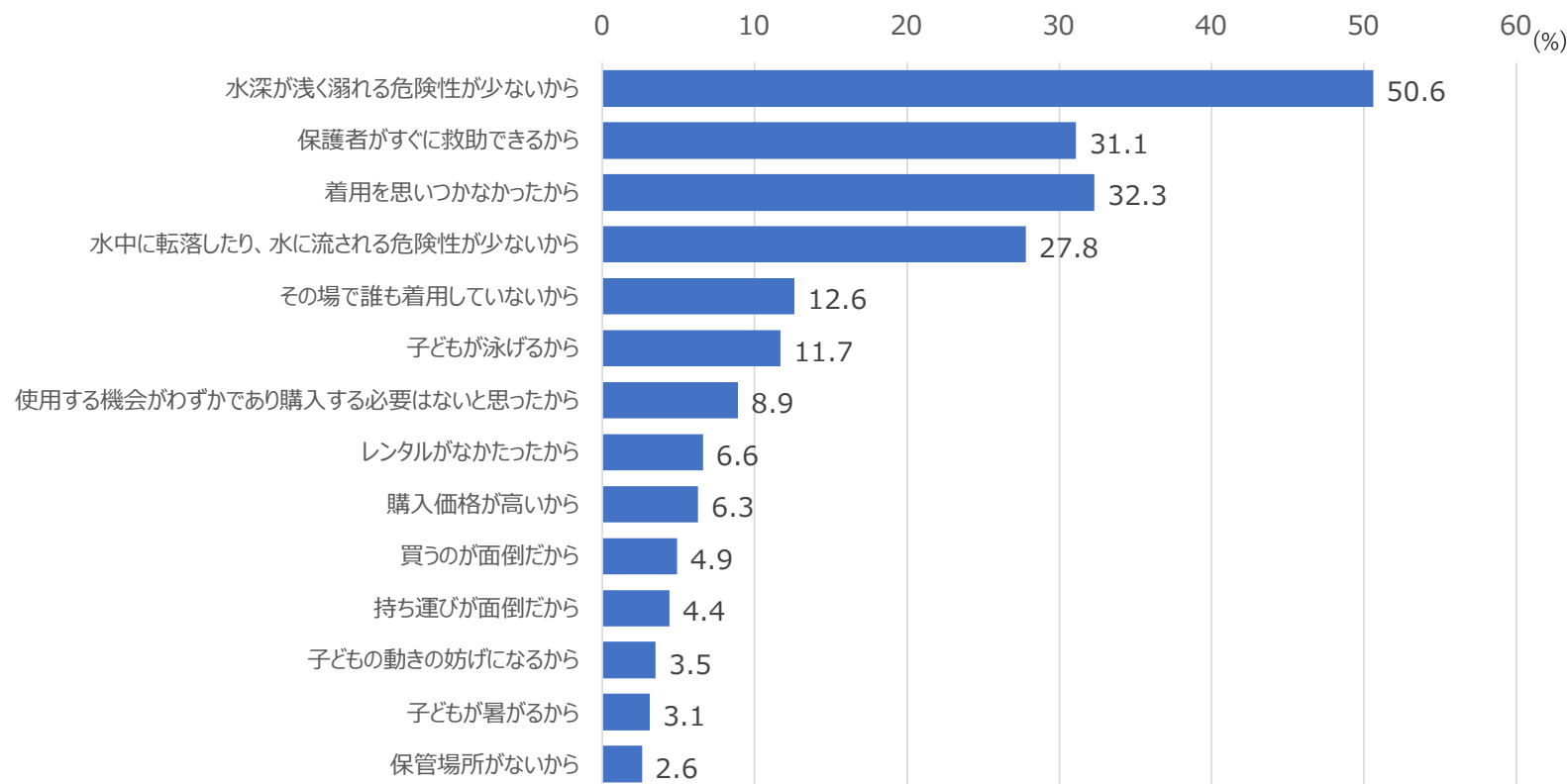
## 5. 水辺で遊ぶ経験・知識の不足

### ② 水辺のリスクを知らないので、必要性を感じない

東京都が行った調査によれば、「水深が浅く、溺れる危険性が少ないから」や、「水中に転落したり、水に流される危険性が少ないから」など、「不規則に変化する」、「表面からは危険を察知しづらい」など自然域の水辺の特徴の認識が少ないのではと思われる回答が上位に上がる。

▼ ライフジャケットを着用しなかった理由（複数回答）

< 再掲 >



出典：東京都生活文化局  
(2018年3月) 「子供用ライフジャケットの安全な使用に関する調査」より抜粋・加工

## 5. 水辺で遊ぶ経験・知識の不足

### (参考)② 水辺のリスクを知らないなので、必要性を感じない

(公財)日本ライフセービング協会の調査によれば、危険が少ないと思われがちで、浅瀬で多くの救助案件が発生している。

#### 溺水時における海象状況

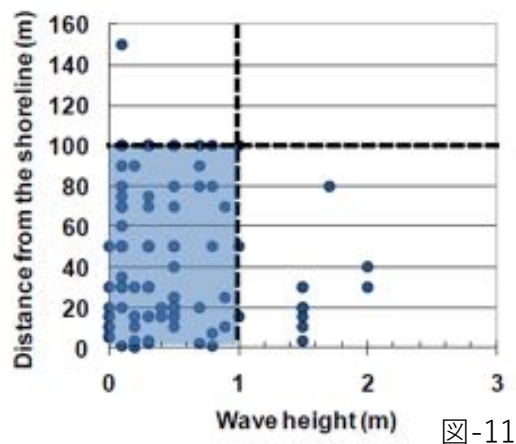


図-11 溺水事故における波高と汀線からの距離との関係

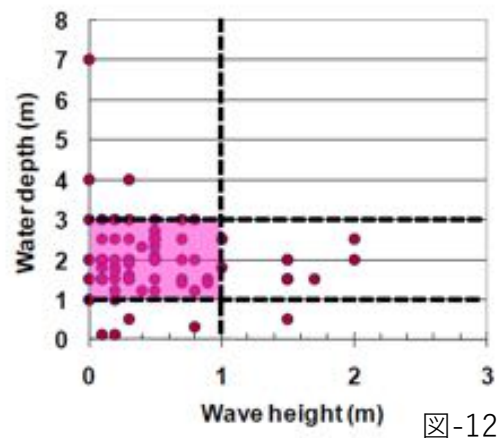


図-12 溺水事故における波高と水深との関係



- 波高1m以下の時で大半が発生している
- 水深1-3mの浅い海域で発生している
- 砕波帯(0-100m)で多く発生している

1



水辺の事故ゼロをめざして  
日本ライフセービング協会

出典：(公益)日本ライフセービング協会





## 6. ユーザーニーズの多様化

## 6. ユーザーニーズの多様化

### ① 最も多い「水遊び」の時のライフジャケットの不快感

本プロジェクトの中で行った「着用感調査」の結果、多くの子どもから楽しいという声があった一方、ライフジャケットの不快感もあったことが意見として挙げられた。

動く上での「軽さ」「動きやすさ(フィット感)」を感じられたライフジャケットには人気が集まった。

#### 着用したライフジャケットの気に入ったポイント



- 体にフィットして、ライフジャケットだけが浮くことがなかった。安心がある。
- 枕があって安心感があった

- 軽かった

※ネオプレン素材

- 色が好き
- 動きやすかった



▲実施時の様子

#### 着用したライフジャケットの不快感だったポイント

- いくら締めても、ライフジャケットが浮き上がってしまい、耳に当たって痛かった。(複数名)
- 首が詰まる・股下ベルトが気になる
- 動きづらい

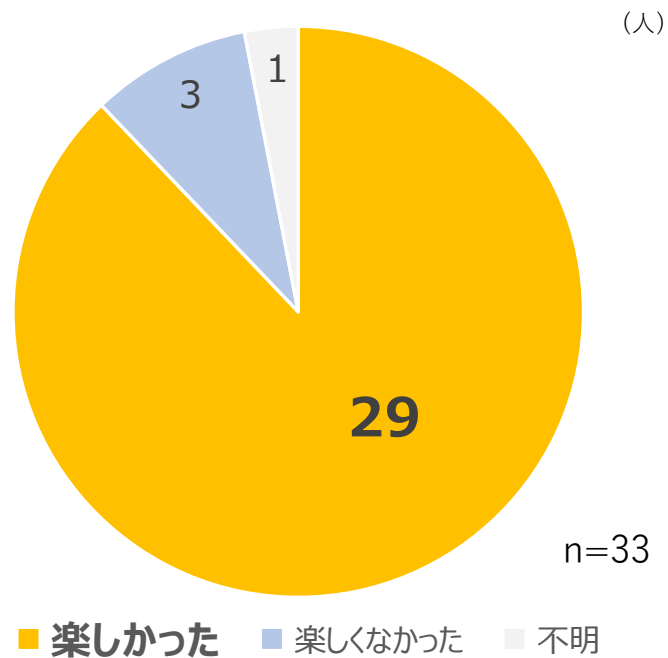


## 6. ユーザーニーズの多様化

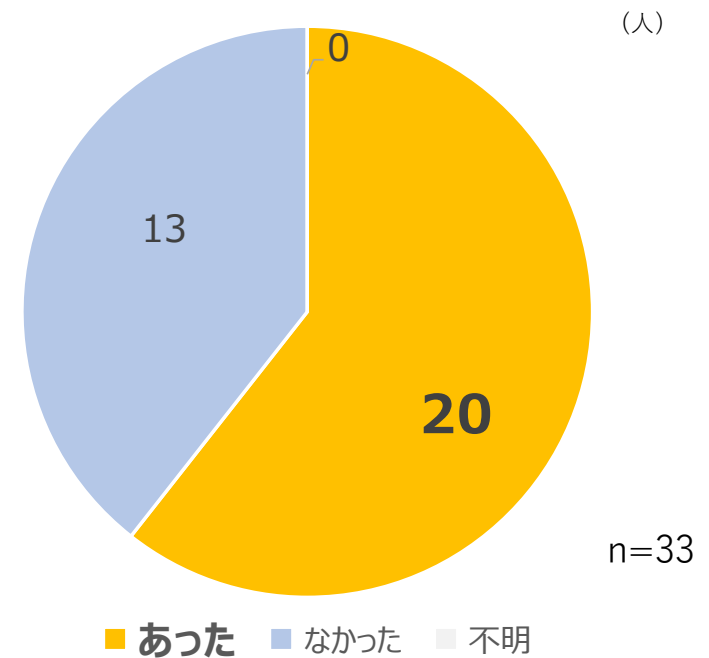
### (参考1) 実際の子どもたちの声

ライフジャケットを着用して遊ぶのは、楽しかったと多くの児童が答えた一方で、ライフジャケットを装着しての遊びに不快感があったかどうかを尋ねると、半数以上が「あった」と回答した。

Q. ライフジャケット を着用して遊ぶのは「楽しかった」



Q. ライフジャケット着用による不快感の有無



## (参考2) ライフジャケットの改善について(着用感アンケートより)

不快感があったと回答した子どもからは「動きづらい」「耳が痛い」といった声が多く上がった。横で見学していた保護者からも、“ライフジャケットが浮いている”“着心地がガサガサして脱ぎたがる”など、フィット感に関する意見が上がった。

### ▼ 子どもの意見・感想

#### <ライフジャケットが浮いて動きづらい、耳が痛い>

- きちんとベルトを閉めたと思っても、ライフジャケットが浮いてきてしまう(鎌倉・数名)
- ベルトを閉めてもアクティブに動くとフィット感が足りない、隙間ができる(豊橋)

#### <色やデザインが好きではない>

- キャラクターが入っている方が良い(豊橋)
- 黒や茶色など、着たくなる色があると良い(鎌倉)

#### <その他>

股紐が気になった / 重い / 脱ぐ時がきつい / 泳ぎにくい

### ▼ 保護者の意見・感想

#### • Mont-bell

- しっかり体にフィットしているように見える
- フィットしているので安心できる
- 頭が浮く枕はあった方が良かった  
落水しても機能的に上を向いて頭が浮く

- 二千円程度のライフジャケット(メーカー名不明)
  - 軽いので不安感、ライフジャケットだけが浮く
  - ベルトを閉めたのに浮いてくる
  - 着心地がガサガサで隙間がある→脱ぎたがる

#### • 全般

- ライフジャケットはとても重要だと理解
- 購入する側としては3千円くらいで、3年くらいは使えるとよい
- 海も川もプールも全て使えると良い
- 持ち運びに嵩ばるので複数保有は難しい

## (参考3) ライフジャケット着用感調査で使用したライフジャケット一覧

ライフジャケット着用感調査で使用したライフジャケットは以下の通り。(※なお、いずれも“浮くこと”、“遊べること”は確認ができた)

メーカー名	高階救命器具	東洋物産	IST	ニッキー(株)	ニッキー(株)
イメージ写真					
メーカー名	(株)キヌガワ	(株)キヌガワ	FINE JAPAN	FINE JAPAN	mont-bell
イメージ写真					

※イメージ写真は各メーカーサイト、通販サイトより 21

## (参考3) “現状のライフジャケット” について(メーカーヒアリング)

保護者、子どもの声を受けて委員会事務局にて、ライフジャケットメーカー、取扱社(3社)へのヒアリングを実施。ライフジャケットのフィット感やサイズ、製品の基準や表示についてお聞きしたところ、以下のことがわかった。

Q. 製品表示にある対応体重、身長等でライフジャケットを選び、購入、装着したが、今回のようにズレてしまう理由は。

### <回答>

- ✓ ライフジャケットは、救命具であり、“浮くこと”を前提に作られているものが多い。(動いて遊ぶことが前提ではない)
- ✓ 求められる点は体重に応じた浮力と、ライフジャケットが抜けてしまわない程度の適したサイズ感という所。
- ✓ フィット感を求めるとライフジャケットの構造が複雑になり高価になり、市場ニーズと合わなくなる。

Q. 購入する際、多くの場合目安体重と身長は記載があるが、“フィット”に関係する胸囲や胴回りなどの表示は、マチマチの状況。理由は。

### <回答>

- ✓ 現状、日本で義務化されている基準は“桜マーク”のみ。
- ✓ そのため、商品購入に関わる情報でも、桜マークでの基準に応じた事項のみ掲載されている可能性。
- ✓ それ以外の基準は現状で言えば表示は必須ではないと考えられる。
- ✓ 厳密にいえば、桜マーク以外の製品はライフジャケット(救命胴衣)ではない。

**現状、船舶用以外のライフジャケットは・・・**  
**船舶用かつ救命用の基準である“桜マーク”がベースの場合がある。**  
**アクティビティの目的に沿った形態でそれぞれに発展している。**  
**一般的な“水遊び”といったニーズへの対応は、検討が必要な状況。**

## 6. ユーザーニーズの多様化

### ② ユーザーが選ぶためのライフジャケットの情報不足

ユーザーが、いざライフジャケットを購入しようと考えた時、「どれを購入すれば良いのかわからない」「どこで購入するのが良いのかわからない」という声が挙がる。何を基準に見れば良いのか、を広くわかりやすく伝える方法を検討すべき。

▼ 普段の活動の中でよく聞かれる声

ライフジャケットを購入しようと思って調べると、色々な種類があり、何を購入して良いかわからない。

実際に店舗に行った方が、実物を見てよくわかるのだと思うが、  
どういうところに置いてあるものなのか。

6. ユーザーニーズの多様化

(参考) 現在の国内の子ども用ライフジャケット基準

	桜マーク	CSマーク	RAC川育ライフジャケット
マーク			
認証機関	国土交通省	JCI日本小型船舶検査機構	川に学ぶ体験活動協議会
特徴	小型船舶乗船時に必要な基準を満たしたライフジャケット。 ※平成30年2月からすべての小型船舶の乗船者にライフジャケットの着用を義務化	桜マーク以外のレジャー用ライフジャケットの基準。子ども用には2種類設定されている。	桜マーク基準をベースに、川で必要な事項をクリアしたライフジャケットを認証している。
設定している基準	子ども用タイプA: 旅客船に乗車することができる。目立つ色で、反射板と笛がついている。 (①体重40kg以上⇒浮力7.5kg以上、②体重15kg以上40kg未満⇒浮力5kg以上 ③体重15kg未満⇒浮力4kg以上)  子ども用タイプD、F、G: 水上オートバイに乗車することができる。 ※D: 色指定なし、反射板・笛付き ※F: 色指定なし、反射板・笛なし ※G: タイプD、Fより浮力が小さい	CSマークが認定対象としているのは次の遊び。(波止場での釣り、カヌー、カヤック、平穏な水面での釣り、海水浴、川遊び) 子ども用の基準は以下の2種類。  LC1: 体重15kg以上40kg未満の子どもを対象とし、浮力は5kg。 LC2: 体重15kg未満の子どもを対象。浮力は4kg。	① 流れの中での活動でも体にしっかりフィットし、脱げにくい構造であること。 ② 川での活動などで動きやすく、泳ぎやすいこと。 ③ 水中において、顔面を水上面に支持し、身体が垂直よりも後方に傾き、呼吸が確保しやすい浮遊姿勢となるようにつくられたものであること。 ④ 川での活動に必要な十分な強度が確保されていること。

※上記は、公開されている“基準”であり、本基準が適用されていない場合に安全性が担保できないというものではありません。



## 6. ユーザーニーズの多様化

### (参考) 子ども用のライフジャケットの選び方

年齢や体の大きさ、  
用途等に合わせた  
ものを選択

ライフジャケットは、年齢や体の大きさ、用途等に合わせたものを選ぶことが重要です。小さな子どもが大きなライフジャケットを着用しても、脱げてしまったり、ライフジャケットの浮力が身体に正しく伝達されない場合があります。

実際に着用して、ベルト等を締めるなど、ライフジャケットが身体に固定されるまでフィットさせることが重要です。

目安となる利用者年齢

大人～中学生程度

小学生程度

幼児



【ライフジャケットIII Lサイズ】  
目安体重 80kgまで  
目安胸囲 75～110cm  
浮力 9.1kg

【ライフジャケットIII Mサイズ】  
目安体重 65kgまで  
目安胸囲 55～85cm  
浮力 7.5kg

定価 4,200円＋税




【ライフジャケットキッズIII】  
目安体重 15～40kg  
目安胸囲 45～75cm  
浮力 5.6kg

定価 4,200円＋税



【ライフジャケットインファント0XIII】  
目安体重 15kg以下  
目安胸囲 50cm以下  
浮力 4.0kg

定価 3,700円＋税



## 7. ライフジャケットを着用する機会・ 仕組みの必要性

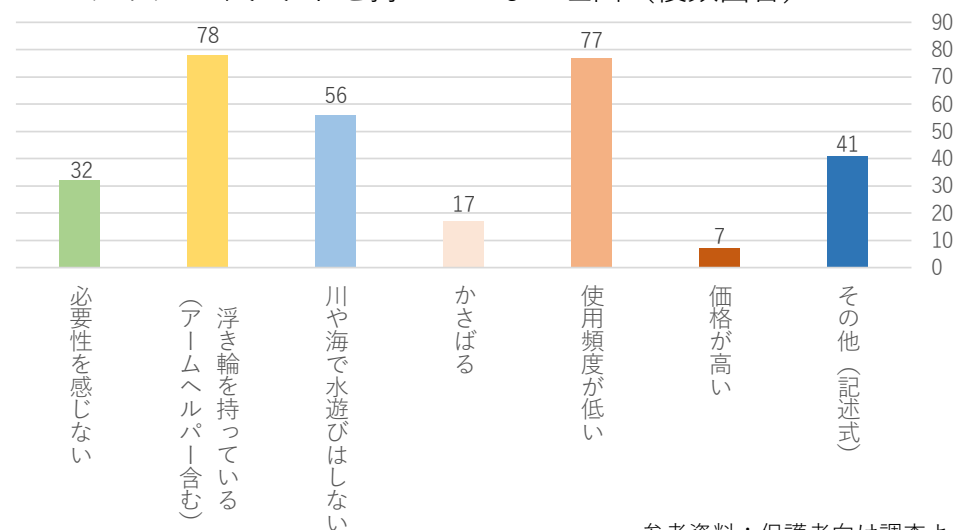
## 7. ライフジャケットを着用する機会・仕組みの必要性

某メーカーの調査によると、子どものライフジャケット販売数の増加傾向から関心の高まりを窺える一方で、検討委員会で実施した保護者アンケートによると、浮輪を持っていることや使用頻度の低さなどがライフジャケットの利用・購入に繋がっていないことが確認できた。



※2017年以降も増加傾向の状況にある。

(ハ) ライフジャケットを持っていない理由（複数回答）



参考資料：保護者向け調査より

事故防止のための安全対策としての周知とともに、ライフジャケットを着用した遊び方や水辺の活動、ライフジャケットが浮くこと、安心感があることなど楽しく活動できるアイテムとしての情報を伝えていく必要があるのではないか。

## 7. ライフジャケットを着用する機会・仕組みの必要性

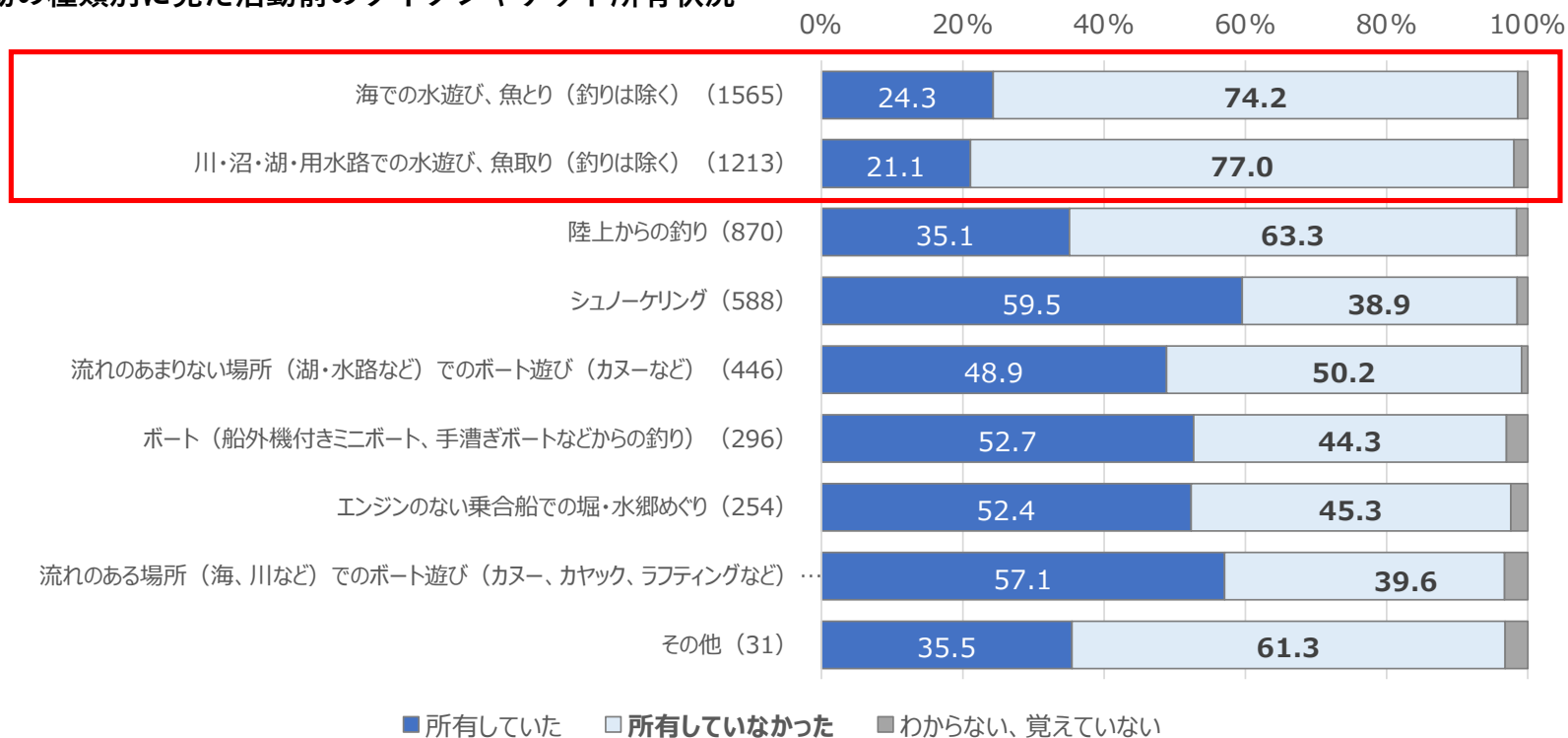
今回委員会で行ったアンケートでは、「ライフジャケットの効果を知る機会がなかった」という意見が多く寄せられた。

- ✓ ライフジャケットは未知だったので、使い方を知ることができたこと、大切だということがよく分かり、参加できてよかった。使い方を一から学べる機会もないので、学ぶ時間を取れてよかったです。(45歳女性)
- ✓ ライフジャケットの便利さが理解できました。(39歳男性)
- ✓ ライフジャケットを着用するのは初めてでした。実際プールに入り、着用前と後では全然浮く楽さが違い正直驚きました。参加した子は水が怖く苦手なので、とてもいい勉強に私も子供もなりました。(42歳女性)

## 7. ライフジャケットを着用する機会・仕組みの必要性

東京都のアンケートでも、シュノーケリングやボート遊びなど、いわゆるアクティビティを行った人のライフジャケット所有率は5割前後だが、水遊びの人は2割程度となっている。水辺で遊ぶ機会が少ない、遊ぶとしても水遊びという状況では、着用する機会はあまりなく、所有する必要性が低いと認識される可能性は高い。

### ▼水辺の活動の種類別に見た活動前のライフジャケット所有状況



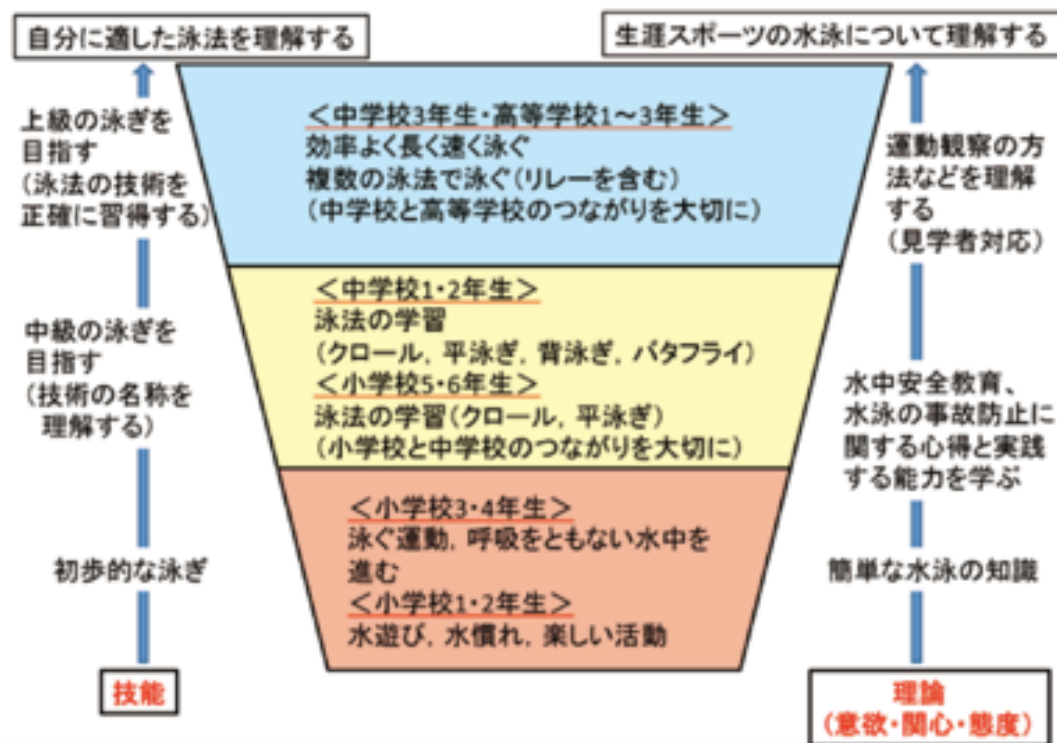
出典：東京都生活文化局（2018年3月）「子供用ライフジャケットの安全な使用に関する調査」より抜粋

## 7. ライフジャケットを着用する機会・仕組みの必要性（教育）

これまで、学校教育における“水泳”は、「水の中で運動する」との点で、陸上における各種の運動と違う点を理解すること、この中で「浮力」「抵抗」「水圧」という水の特性を覚えながら、泳法を学習をすることになっていた。

具体的には、小学校低学年・中学年では、水慣れ、水遊びまた、呼吸を伴い水中を進むこと、初歩的な泳ぐ運動を身に付け、小学校高学年では、泳法の学習を行うなど。安全に関する指導はありますが、ライフジャケットの効果を知る内容はほとんどなかったと考えられる。

▼学校体育実技指導要領 第4集  
水泳指導の手引き（三訂版）  
第1章第1節（3）水泳系領域の狙いより



## 7. ライフジャケットを着用する機会・仕組みの必要性（教育）

一方、2020年より開始された新学習指導要領においては、高学年の指導要領に「安全確保につながる運動」が新設され、“生命を守るためにすべきこと”として、続けて長く浮くための方法などが取り入れられることになった。この変更から、ライフジャケットの効果を学校で伝えることが、今後広がっていくことが期待できる。

### ▼平成 29 年改訂の小・中学校学習指導要領に関する Q&A より

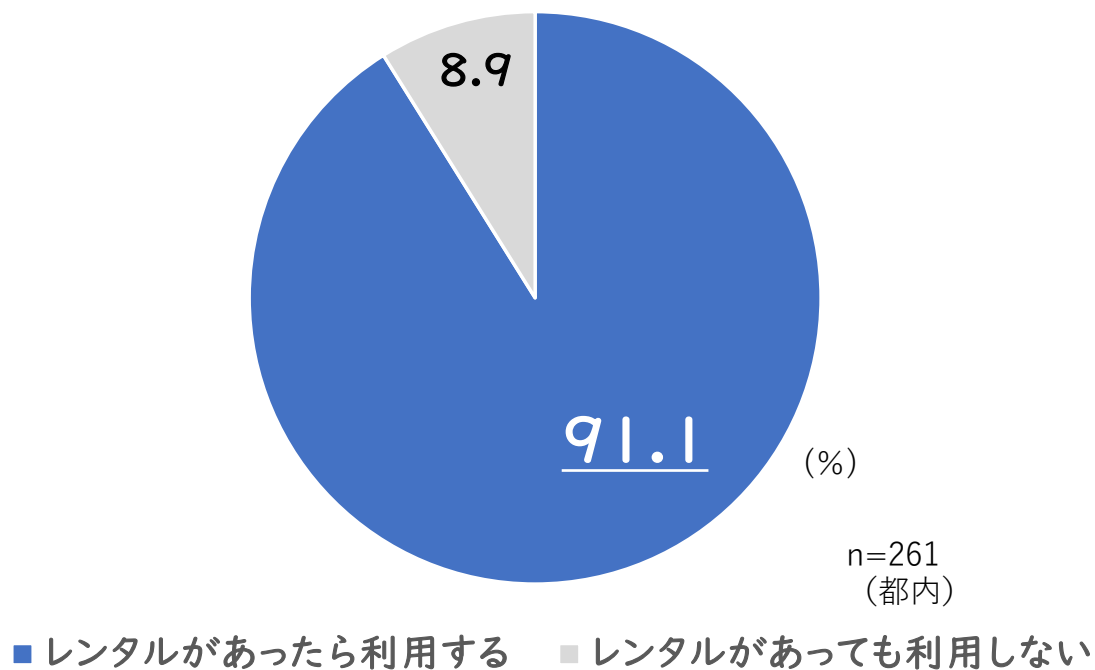
「安全確保につながる運動」は、背浮きや浮き沈みをしながら、タイミングよく呼吸をしたり、手や足を動かしたりして、続けて長く浮くことができるようにすることをねらいとしています。これは、高学年の内容か「クロール」と「平泳ぎ」という2種類の泳法指導に終始することなく水泳運動の学習を広げること、「泳げる」ことと同様に「浮いていること」も生命の安全確保には有効であること、泳力の有無にかかわらず、水の特性を楽しむ機会を保証すること等を意図しています。また、昨今の国内外に絶えない水難事故の発生にも留意した内容とも捉えられます。

## 7. ライフジャケットを着用する機会・仕組みの必要性（施設等）

日本では、プール施設、海水浴場、河川付近の施設等、一般の人たちが集まる場所でのライフジャケットの装着、または設置義務はない。（日本における装着義務は、船舶乗船時のみ）

アンケートからは、「レンタルがあれば利用してみたい」という回答が多数を占めており、水辺の施設でのライフジャケットの設置、利用促進が進めば、多くの人々がライフジャケットを着用する機会に恵まれると考える。

### ▼ レンタルライフジャケットの利用意向







## 8. 検討委員会からの提言

## 8. 検討委員会からの提言

---

<提言1> 多様化するユーザーニーズに応じた情報提供、製品づくり

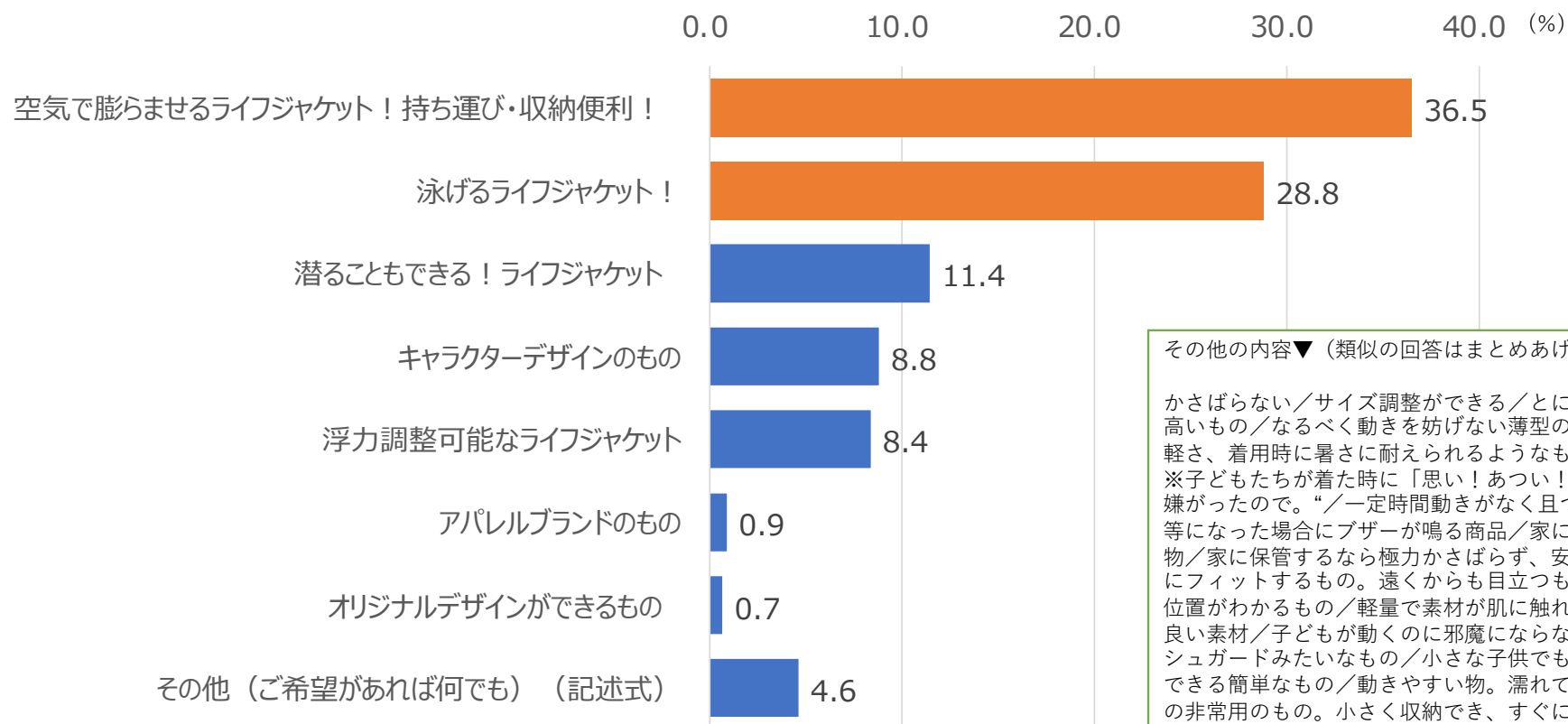
<提言2> ライフジャケットを自然に着用できるアクティビティの提案と

全ての人が体験できる仕組みの構築・実施  
(施設、学校、レンタカー、プールなど)

## 8. (参考1)

# <提言1> 多様化するユーザーニーズに応じた情報提供、製品づくり

### ▼ こんなライフジャケットがあったら試してみたいと思うもの (複数回答)



#### その他の内容▼ (類似の回答はまとめあげ)

かさばらない／サイズ調整ができる／とにかく安全性の高いもの／なるべく動きを妨げない薄型のもの／"安全と軽さ、着用時に暑さに耐えられるようなもの  
※子どもたちが着た時に「思い！あつい！くさい！」と嫌がったので。"／一定時間動きがなく且つ水深1m以下等になった場合にブザーが鳴る商品／家にしましやすい物／家に保管するなら極力かさばらず、安全なもの／体にフィットするもの。遠くからも目立つもの。GPSなど位置がわかるもの／軽量で素材が肌に触れても気持ちの良い素材／子どもが動くのに邪魔にならないようなラッシュガードみたいなもの／小さな子供でも、一人で着脱できる簡単なもの／動きやすい物。濡れてもすぐ乾くもの非常用のもの。小さく収納でき、すぐに大きくなる。丈夫。

## 8. (参考1)

### <提言1> 多様化するユーザーニーズに応じた情報提供、製品づくり

---

#### <提言1について>

- ✓ 船舶用、救命用ライフジャケットが基本基準である一方で、ユーザーニーズとしては遊びやすさ・泳ぎやすさ、補助的な浮力としてのライフジャケットへのニーズも高いことが調査結果から明らかになった。
- ✓ 「浮く」という基本機能に加えて、「動きやすさ」「通気性」など、ユーザーが選ぶ視点に沿った、ライフジャケットの製品性能を客観的にわかりやすく提示していくなどすると、ユーザー側でも選びやすさが上がっていくのではないか。
- ✓ 情報提供の一案として、製品タグのQRコード等を利用し、ライフジャケットの使い方や、水辺での様子などがわかる動画を提供することも考えられる。

## 8. (参考1)

### <提言2> ライフジャケットを自然に着用できるアクティビティの提案と 全ての人々が体験できる仕組みの構築・実施（施設、学校、レンタカー、プールなど）

(イメージ)

#### ▼施設 × ライフジャケット

川や海の近くにある施設（道の駅、渚の交番等）は、必ずライフジャケットを常備。また川辺、海辺で遊ぶ人への注意を促す案内を発信。



(イメージ)

#### ▼レンタカー × ライフジャケット

レンタカーのオプションに、ベビーシート等と同様に“ライフジャケット”を選べるように、レンタカー実施業者などにご協力をいただく。



「安全がすべての人に平等であるように」  
こうした仕組みは無料または廉価でできることが重要です。

## 9. さいごに

## 水辺の必須アイテム ライフジャケットを着ると楽しい！ 一豊かな体験と学びへー



海と日本プロジェクト 海ロデオ



命を守ることは「生きる」ということ  
子どもたちのチャレンジを応援する、活動と可能性を広げるアイテムとしてのライフジャケット

## 水辺から未来を考える

今年、コロナウイルスの影響で日常が一変しました。  
当委員会も、コロナウイルスの感染対策を行いながら、できる限りの調査・検討を続けて参りました。  
子どもたちには、地域や環境に左右されることなく、水辺の活動を通じて豊かな体験や学びを得てほしいと実感しています。

日本は、海に囲まれ国土の6割は森林です。急峻な山がそびえたち、その山から川が生れ雨水は海へと注がれて行きます。  
私たちにとって、水辺はとても身近で、生きるために欠かすことのできない大切な存在ですが、  
海、川、湖などで、水難事故は毎年発生しています。

これまで、事故を防止するための安全対策として、ライフジャケット着用に関する啓発は実施されてきました。  
どうすれば事故を防ぐことができるのだろう・・・というところから、ライフジャケット検討委員会はスタートしました。  
そして、水辺との関わりは多様であるということを見つめ直す必要がありました。

私たちは、水辺から多くの恩恵を受けて暮らしています。  
ライフジャケットの着用は、水辺との関わりの中では小さな取り組みの一つなのかもしれません。  
しかし、できることを着実に実現していくことが、明るい未来を築いていく一歩だと考えます。  
一人一人の行動が広がっていく、水を打つ「波紋」のように。  
大人も子ども一緒に、ライフジャケットを着用しましょう！

2020年12月 ライフジャケット検討委員会





# 參考資料

## 着用感調査 調査設計

項目	内容
目的	ライフジャケットを着用して活動することへの子ども目線での評価の収集
方法	ライフジャケットを着用して水辺での活動を行なった児童に対して、自記入式によるアンケートを行う
実施対象	① 海のそなえ推進プロジェクト実行委員会主催イベント「海ロデオ」に参加した小学生男（高学年） ② 豊橋Love & Safetyの実施する講座に参加した小学生男女
サンプル数	① 10名 ② 17名
着用したライフジャケット	① モンベル Kid's フリーダム ② モンベル Kid's フリーダム（1名のみ（株）タバタのライフジャケット）
聴取内容	<ul style="list-style-type: none"><li>・ ライフジャケットを着用した遊びはどうだったか</li><li>・ ライフジャケットを着用して嫌なところはあったか</li><li>・ いやな部分について具体的に</li><li>・ またライフジャケットを着用して遊びたいと思うか</li><li>・ ライフジャケットを着用して遊んだ経験</li></ul>

## 単純集計表

Q1. ライフジャケットを着て遊んでみて、どうでしたか。

	楽しかった	楽しくなかった	不明	総計
着用の感想（個数）	23	3	1	27
（割合）	85.2%	11.1%	3.7%	100.0%

Q2. ライフジャケットを着てみて、嫌なところがありましたか。

	あった	なかった	総計
個数 / 着用の感想	15	12	27
（割合）	55.6%	44.4%	100.0%

## 単純集計表

---

Q3. 具体的にどんなところが気になりましたか。

- 股ひもが気になった（10名）
- 首のところが詰まる（1名）
- 泳ぎにくい（1名）
- 重い（1名）
- 脱ぐ時が少しきつかった（1名）
- 違う色がよかった（黒、茶色 等）（3名）
- キャラクターや模様が欲しい（4名）

## 単純集計表

Q4. また、ライフジャケットを着用して遊んでみたいと思いますか。

	思う	思わない	総計
個数 / 今後の着用意向	26	1	27
(割合)	96.3%	3.7%	100.0%

Q5. これまでライフジャケットを着たことはありましたか。

	ある（陸上のみ）	ある（水辺で遊んだことがある）	ない	総計
個数 / これまでの経験	9	5	13	27
(割合)	33.3%	18.5%	48.1%	100.0%

## 着用感 深掘り調査 調査設計

項目	内容
目的	ライフジャケットを着用して活動することへの子ども目線での評価の収集 複数種類の着用試験による比較しての視点の収集
方法	用意したライフジャケットのサイズが適正な児童に、複数種類のライフジャケットを着用して海辺で遊んでもらい、総合的に評価を得る。
実施対象	鎌倉市に在住の児童
サンプル数	6名
着用したライフジャケット	次頁に掲載
聴取内容	<ul style="list-style-type: none"><li>• ライフジャケットを着用した遊びはどうだったか</li><li>• 一番好きなタイプのライフジャケットはどのタイプだったか</li><li>• 一番好きなライフジャケットとその理由</li><li>• ライフジャケットを着用して嫌なところはあったか</li><li>• いやな部分について具体的に</li><li>• またライフジャケットを着用して遊びたいと思うか</li><li>• ライフジャケットを着用して遊んだ経験</li><li>• 児童の泳力</li></ul>

## 用意したライフジャケット(一覧)

メーカー名	高階救命器具	東洋物産	IST	ニッキー(株)	ニッキー(株)
イメージ写真					
メーカー名	(株)キヌガワ	(株)キヌガワ	FINE JAPAN	FINE JAPAN	mont-bell
イメージ写真					

## 単純集計表

Q1. ライフジャケットを着て遊んでみて、どうでしたか。

	楽しかった	楽しくなかった	総計
個数 / 着用の感想	6	0	6
(割合)	100.0%	0.0%	100.0%

Q2. 一番好きなライフジャケットはどのタイプでしたか。

	①救命具タイプ	②ネオプレンタイプ	③ポリエチレンタイプ (股紐1本)	④NBR (股紐2本)	総計
個数 / 好きなタイプ	1	2	0	3	6
(割合)	16.7%	33.3%	0.0%	50.0%	100.0%



## 単純集計表

Q3. 一番好きなライフジャケットはどれでしたか。

	① ア	② イ	③ ウ	④ エ	⑤ オ
個数 / 好きなライフジャケット	0	1	0	2	0
(割合)	0.0%	16.7%	0.0%	33.3%	0.0%

	⑥ カ	⑦ キ	⑧ ク	⑨ ケ	⑩ コ	総計
個数 / 好きなライフジャケット	0	0	0	0	3	6
(割合)	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	50.0%	100.0%

Q3-2. その理由は

- (イ) … 軽かった
- (エ) … 動きやすい、色が好き
- (コ) … 安心感があってよかった。(1名)  
首まで浮いてこなかった。(2名)  
枕があって安心感があった(1名)

## 単純集計表

Q4. ライフジャケットを着て嫌なことはあったか。

	あった	なかった	総計
個数 / 着用の不快	5	1	6
(割合)	83.3%	16.7%	100.0%

Q5. 具体的に

- ライフジャケットの首の部分が上に来て嫌だった
- 首のところまで浮いてきた
- 着て海に入ると、首まで浮くからちょっとやだった。
- 首まで浮いてしまって耳が痛かった。
- きつかった

## 単純集計表

Q6. また、ライフジャケットを着けて遊んでみたいと思いますか。

	思う	思わない	総計
個数 / 今後の着用意向	5	1	6
(割合)	83.3%	16.7%	100.0%

Q7. これまでライフジャケットを着たことはありましたか。

	ある（陸上のみ）	ある（水辺で遊んだことがある）	ない	総計
個数 / これまでの経験	0	4	2	6
(割合)	0.0%	66.7%	33.3%	100.0%

## 単純集計表

Q8. あなたの泳力はどの程度ですか。

	自然の水辺でも自由に泳げる	自然の水辺では難しいがプールでは25m以上泳ぐことができる	プールで25m未満泳ぐことができる	泳ぎはできない	総計
個数 / 着用の不快	2	0	2	2	6
(割合)	33.3%	0.0%	33.3%	33.3%	100.0%

## 保護者向け調査 調査設計

項目	内容
目的	保護者のライフジャケット等に関する認識を把握する
方法	社会福祉法人 清遊の家に所属する保育園、学童保育クラブの保護者への自記入式アンケート
実施対象	① 同社会福祉法人の保育園（葛飾区） ② 同社会福祉法人の保育園（御蔵島村） ③ 同社会福祉法人の学童保育クラブ（葛飾区）
回収数／配布数 （回答率）	① 145／291（49.8%） ② 9／15（60.0%） ③ 116／286（40.6%）
聴取内容	<ul style="list-style-type: none"> <li>子どもと水辺に遊びに行く機会の有無</li> <li>自身の子供の頃の経験</li> <li>ライフジャケットの有無</li> <li>ライフジャケットのレンタルについて</li> <li>希望するライフジャケットの種類</li> <li>子どもの水遊びに関する不安しや心配事について</li> </ul>

※実施対象を表側として集計表を掲載。

※②について、保護者の職業として漁師が多いなど船を使うのが日常的な環境であるため、回答が特異となっている。そのため本編では、①＋③の結果のみ掲載している。

## クロス集計表（回答者の種類別）

Q1.お子さんと海や川などに遊びに行く機会がありますか？

	ある	ない	総計
①保育園（葛飾区）	81 55.9%	64 44.1%	145 100.0%
②保育園（御蔵島村）	9 100.0%	0 0.0%	9 100.0%
③学童（葛飾区）	82 70.7%	34 29.3%	116 100.0%

Q2.ご自身が子どもの頃、海や川で遊んだ経験はありますか？

	ある				ない	無回答	総計
		夏休みの旅行など	川や海が身近な地域だった	その他（記述式）			
①保育園（葛飾区）	135 93.1%	96 66.2%	49 33.8%	0 0.0%	9 6.2%	1 0.7%	145 -
②保育園（御蔵島村）	9 100.0%	4 44.4%	4 44.4%	1 11.1%	0 0.0%	0 0.0%	9 -
③学童（葛飾区）	111 95.7%	76 65.5%	28 24.1%	1 0.9%	5 4.3%	0 0.0%	116 -

## クロス集計表（回答者の種別別）

Q3. お子さんのライフジャケットを持っていますか？

	持っている	持っていない	総計
①保育園（葛飾区）	24 16.6%	121 83.4%	145 100.0%
②保育園（御蔵島村）	9 100.0%	0 0.0%	9 100.0%
③学童（葛飾区）	23 19.8%	93 80.2%	116 100.0%

Q4. 持っていると回答した方へ、お持ちのライフジャケットのメーカー、購入場所、理由、価格を教えてください。

<メーカー>

回答されたメーカー：

モンベル、ファインジャパン（3）、  
HYPRELITE、ニッキー株式会社、スリーコインズ（2）、LOGOS、  
オーシャンjr-IS、AQA（2）、リーフツアラー、  
sea people、wipeout ekl5100

<価格>

	1000円以下	3000円以下	5000円以下	総計
①保育園（葛飾区）	2 13.3%	4 26.7%	9 60.0%	15 100.0%
②保育園（御蔵島村）	0 0.0%	2 66.7%	1 33.3%	3 100.0%
③学童（葛飾区）	1 11.1%	5 55.6%	3 33.3%	9 100.0%

## クロス集計表（回答者の種類別）

Q4.持っているとお答えした方へ、お持ちのライフジャケットのメーカー、購入場所、理由、価格を教えてください。

### <購入場所>

	ショッピングセンター	ネット	その他	総計
①保育園（葛飾区）	8 44.4%	5 27.8%	5 27.8%	18 100.0%
②保育園（御蔵島村）	0 0.0%	7 87.5%	1 12.5%	8 100.0%
③学童（葛飾区）	9 45.0%	7 35.0%	4 20.0%	20 100.0%

### <購入場所その他記入内容>

その他回答：  
おさがり、いただきもの（４）、アウトドアショップ・スポーツ用品点（４）、釣具店（２）



## クロス集計表（回答者の種類別）

Q4.持っているとお回答した方へ、お持ちのライフジャケットのメーカー、購入場所、理由、価格を教えてください。

<購入理由>

	泳げないため	安全のため・事故防止	海や川、プール等の水辺に行くため	船舶利用に必要	特定のアクティビティのため	ライフジャケットの安全性が高そうだから	総計
①保育園（葛飾区）	1 5.0%	7 35.0%	10 50.0%	0 0.0%	2 10.0%	0 0.0%	20 100.0%
②保育園（御蔵島村）	1 12.5%	2 25.0%	2 25.0%	2 25.0%	0 0.0%	1 12.5%	8 100.0%
③学童（葛飾区）	1 6.3%	3 18.8%	10 62.5%	0 0.0%	1 6.3%	1 6.3%	16 100.0%

※ 購入理由は自由回答だが、傾向を把握するためコーディングを行った。

## クロス集計表（回答者の種類別）

Q5. 「持っていない」と回答された方に質問です。理由を教えてください。

	必要性を感じない	浮き輪を持っている（アームヘルパー含む）	川や海で水遊びはしない	かさばる	使用頻度が低い	価格が高い	その他（記述式）	総計
①保育園（葛飾区）	21 14.5%	34 23.4%	35 24.1%	5 3.4%	39 26.9%	2 1.4%	26 17.9%	145 -
②保育園（御蔵島村）	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%	9 -
③学童（葛飾区）	11 9.5%	44 37.9%	21 18.1%	12 10.3%	38 32.8%	5 4.3%	15 12.9%	116 -

Q6. 子ども用ライフジャケットを購入する場合、希望価格はありますか？

	2000円以内	3000円以内	4000円以内	5000円以内	10000円以内	無回答	総計
①保育園（葛飾区）	29 20.0%	59 40.7%	9 6.2%	33 22.8%	3 2.1%	12 8.3%	145 100.0%
②保育園（御蔵島村）	3 37.5%	0 0.0%	1 12.5%	2 25.0%	2 25.0%	1 12.5%	8 100.0%
③学童（葛飾区）	29 25.0%	44 37.9%	9 7.8%	18 15.5%	2 1.7%	14 12.1%	116 100.0%

## クロス集計表（回答者の種類別）

### Q7. ライフジャケットのレンタル経験

	借りたことがある	時々借りる	借りたことがない	無回答	総計
①保育園（葛飾区）	22 15.2%	3 2.1%	101 69.7%	19 13.1%	145 100.0%
②保育園（御蔵島村）	2 22.2%	0 0.0%	5 55.6%	2 22.2%	9 100.0%
③学童（葛飾区）	30 25.9%	0 0.0%	79 68.1%	7 6.0%	116 100.0%

### Q8. レンタルをした場所と金額

	海の家など利用施設でのレンタル	自治体での無料レンタル	総計
①保育園（葛飾区）	14 73.7%	5 26.3%	19 100.0%
②保育園（御蔵島村）	0 0.0%	2 100.0%	2 100.0%
③学童（葛飾区）	6 30.0%	14 70.0%	20 100.0%

<金額>  
 0円 … 4人  
 500円以下 … 8人  
 1000円 … 3人  
 3000円 … 1人

## クロス集計表（回答者の種別別）

### Q9. ライフジャケットのレンタル意向の有無とレンタル希望場所

	あり			なし	無回答	総計
		海の家など利用施設でのレンタル	自治体での無料レンタル			
①保育園（葛飾区）	105 72.4%	74 51.0%	55 37.9%	11 7.6%	29 20.0%	145 100.0%
②保育園（御蔵島村）	4 44.4%	4 44.4%	0 0.0%	1 11.1%	4 44.4%	9 100.0%
③学童（葛飾区）	70 60.3%	54 46.6%	31 26.7%	6 5.2%	40 34.5%	116 100.0%

### Q10. 時々着用する（またはしない場合がある）の理由

	特定のアクティビティのため	着用が義務・必須のため	安全のため	水辺で遊んだため	高ぶるため	総計
①保育園（葛飾区）	4 50.0%	3 37.5%	1 12.5%	0 0.0%	0 0.0%	8 100.0%
②保育園（御蔵島村）	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%
③学童（葛飾区）	1 10.0%	2 20.0%	5 50.0%	1 10.0%	1 10.0%	10 100.0%

## クロス集計表（回答者の種別別）

### Q11. 求めるライフジャケット

	泳げるライフジャケット！	空気で膨らませるライフジャケット！ 持ち運び・収納便利！	潜ることもできる！ ライフジャケット	浮力調整可能な ライフジャケット	キャラクターデザインのもの	オリジナルデザイン ができるもの	アパレルブランドの もの	その他（ご希望があれば何でも） （記述式）	総計
①保育園（葛飾区）	75 51.7%	92 63.4%	27 18.6%	21 14.5%	29 20.0%	2 1.4%	3 2.1%	13 9.0%	145 -
②保育園（御蔵島村）	2 22.2%	3 33.3%	5 55.6%	2 22.2%	1 11.1%	0 0.0%	0 0.0%	1 11.1%	9 -
③学童（葛飾区）	56 48.3%	74 63.8%	25 21.6%	17 14.7%	11 9.5%	1 0.9%	1 0.9%	8 6.9%	116 -

### <その他記述内容>

- 安全性が高い … 8人
- 子供の動きを邪魔しない、動きやすい … 7人
- 嵩張らない、収納しやすい … 6人
- サイズ調整ができる … 3人

#### <2人が回答>

- 軽い
- 暑くならない

- アラート機能、GPS機能等付き

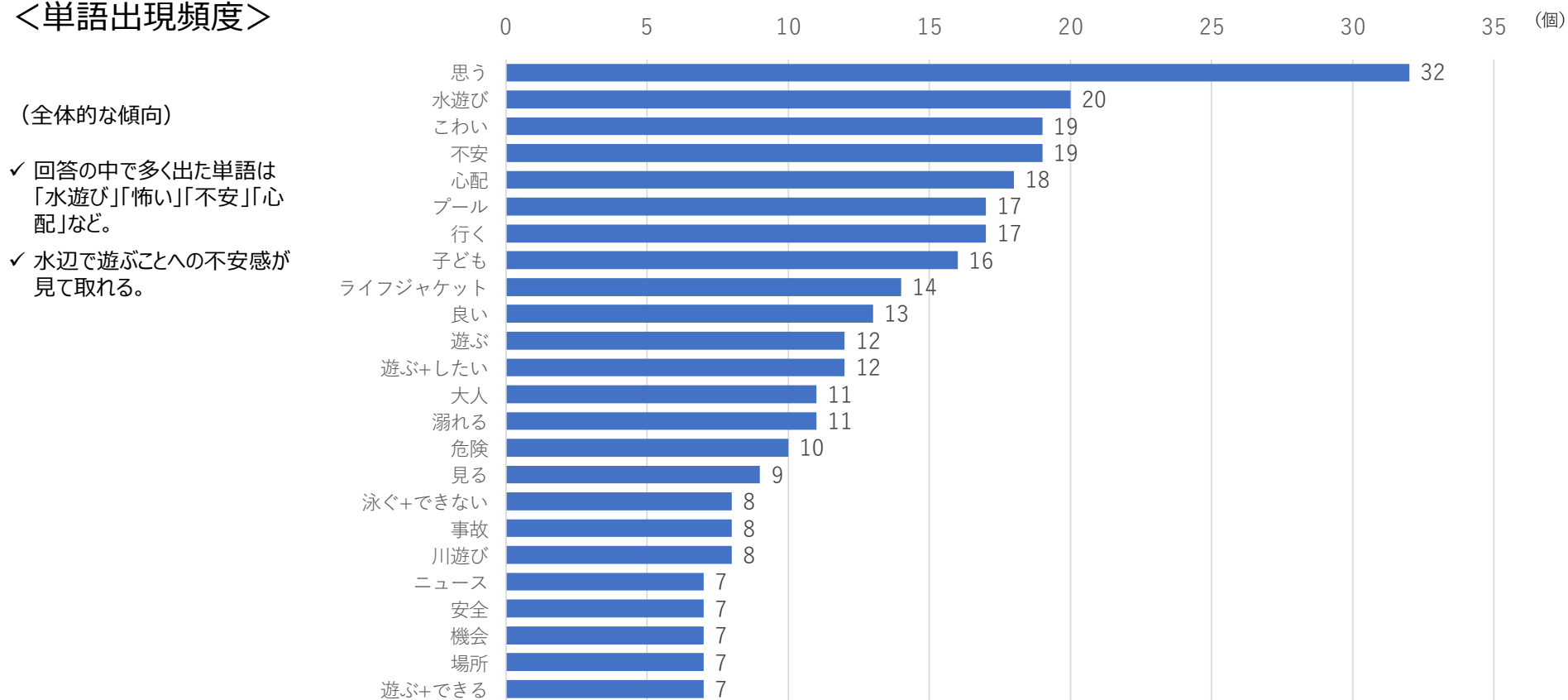
#### <1人が回答>

- 笛などの機能
- 着脱のしやすさ
- 乾きやすさ
- 肌に優しい、着心地

# テキスト分析

Q12. お子さんの水遊びに関する不安や心配事、こんな水遊びをさせてみたいなどご意見伺わせてください。

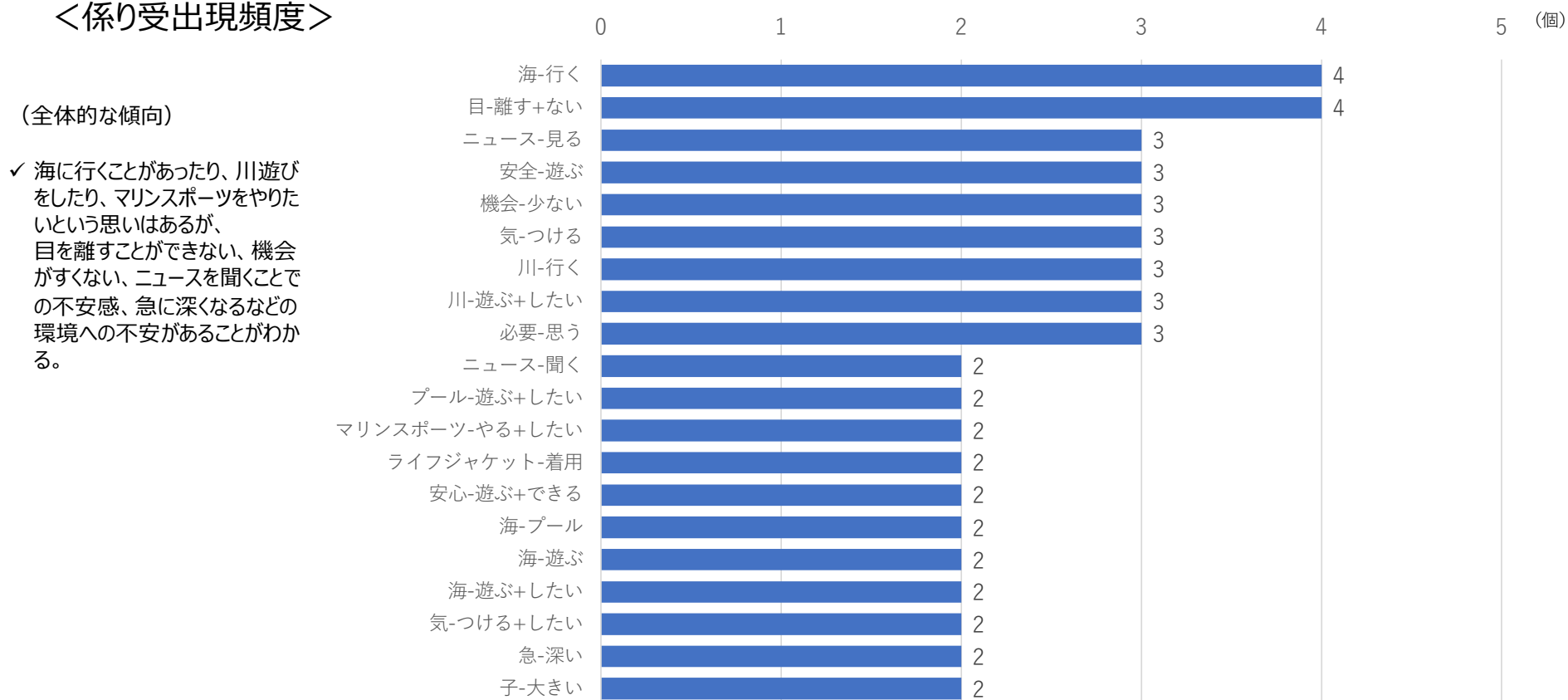
## <単語出現頻度>



# テキスト分析

Q12. お子さんの水遊びに関する不安や心配事、こんな水遊びをさせてみたいなどご意見伺わせてください。

## <係り受出現頻度>



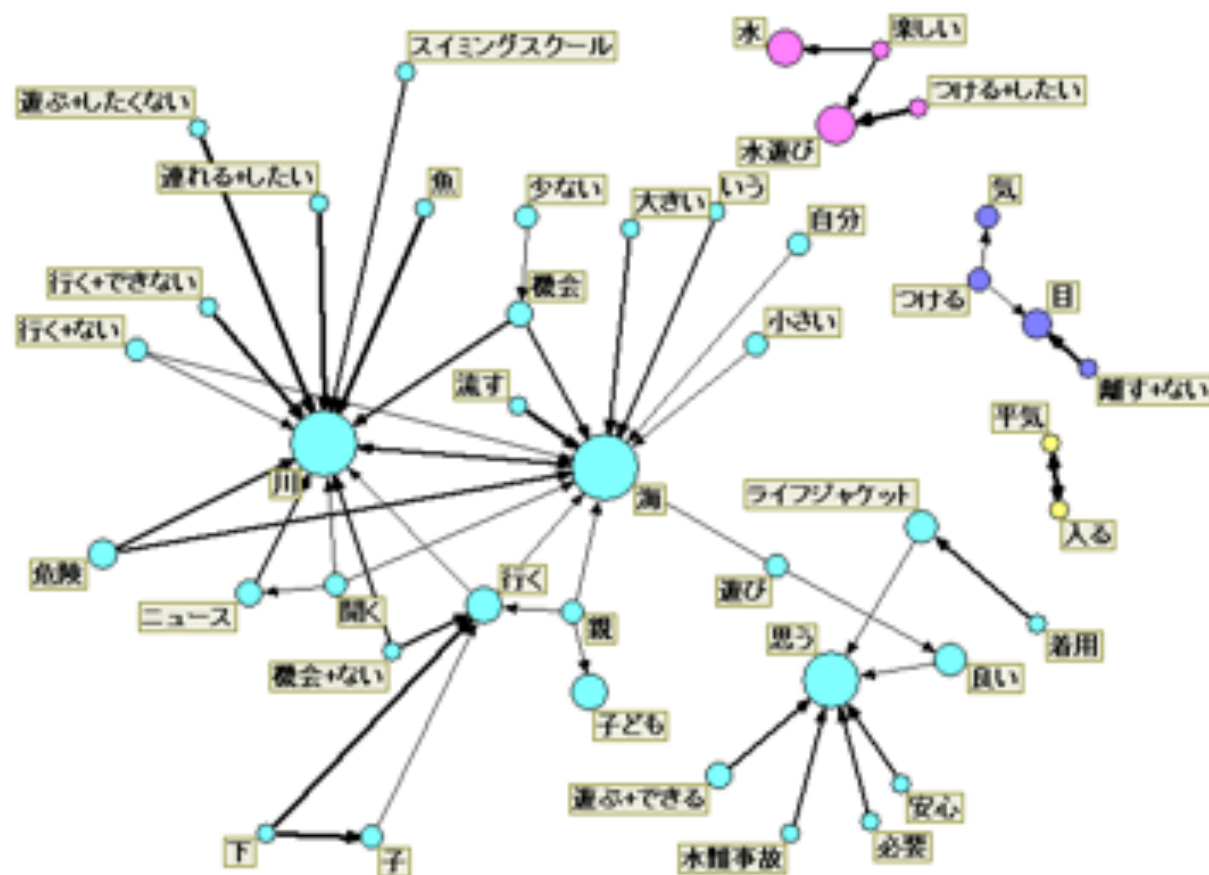
# テキスト分析

Q12. お子さんの水遊びに関する不安や心配事、こんな水遊びをさせてみたいなどご意見伺わせてください。

## ＜言葉ネットワーク (共起分析)＞

(全体的な傾向)

- ✓ 川に対して「連れて行きたい」とある。一方で、「遊ばせたくない」「いけない」「行かない」が「危険」や「ニュースを見聞きして」といった言葉と合わせて出現しており、自然環境への不安が高いことがわかる。
- ✓ 海に関しても同様に機会が少ないこと、危険があることなどを気にしている。
- ✓ 一方で、ライフジャケットがあると安心、遊べる、などちやくよに対するポジティブな意見も挙がっている。







一般社団法人

吉川慎之介記念基金

Shinnosuke Memorial Foundation



ライフジャケット検討委員会は海と日本プロジェクトの一環で実施しています。

# 子どもの水辺の事故-再発防止と未然防止への思い

一般社団法人吉川慎之介記念基金  
吉川豊

一般社団法人吉川慎之介記念基金は、2012年7月20日に水難事故で亡くなった私の息子である慎之介の事故の教訓をいかすために設立した法人です。

当時5歳だった慎之介は、幼稚園のお泊り保育中に川で水遊びが行われた際に、増水によって流され亡くなりました。ライフジャケットを着用していたら生存していた可能性の高い事故であったことが、刑事裁判などでも明らかになりました。2016年5月30日、この事故に関する刑事裁判の元園長に対する有罪判決の中で、ライフジャケットを着用すべきであったことに加え、社会に向けた大きな課題が示されました。

園児の安全確保にとって、  
必ずしも教諭個人に対する厳しい刑罰が効果的とはいえず、  
幼稚園における保育の実態を踏まえた園外活動の種々のガイドライン等の作成や  
事故事例に関する情報を容易に利用できるような仕組み作り等といった、  
個々の教諭の努力を超えた部分での安全対策がなければ  
十分な安全確保とならない場合も起こり得るのであって、  
そのような枠組みの中で個々の教諭が十分な注意義務を果たすことが求められている

平成28年（2016年）5月30日 松山地方裁判所 刑事裁判判決文より

刑事裁判は、個人に対して法的責任を問うものですが、同時に、判決は社会全体で考えるものとして、真摯に受け止めております。判決後も、水辺での子どもの溺水事故は毎年発生しています。

子どもの命を守り育むためには、社会全体で安全な環境を整備する様々な仕組みや提案が必要です。

検討委員会の結果を踏まえ、子どもの水辺の事故、限りなくゼロを目指して、私たちにできることを考え取り組んで参りたいと思います。